

令和5年6月23日

文化審議会の答申（国宝・重要文化財（建造物）の指定）

文化審議会（会長 ^{さとう まこと} 佐藤 信）は、令和5年6月23日（金）に開催された同審議会文化財分科会の審議・議決を経て、1件の建造物を国宝に新規に指定し、8件の建造物を重要文化財に新規に指定し、あわせて3件の建造物を重要文化財に追加指定（件数は変更なし）することを文部科学大臣に答申しました。

この結果、官報告示を経て、国宝・重要文化財（建造物）は、2,565件、5,406棟（うち国宝231件、295棟を含む。）となる予定です。

◎今回の答申における主なもの

【国宝】 ^{つうじゆんきょう} 通潤橋 1基 ^{かみましきぐんやまとちょう} 熊本県上益城郡山都町

^{かえい} 嘉永7年（1854）建設。近世最大級の石造アーチを溪谷に架け渡し、精緻で独創的なつくりの ^{たかいしがき} 高石垣と、実証実験を重ねて耐久性を高めた石造のサイホンを一体化した、技術的完成度の極めて高い、近世石橋の傑作。平成28年の熊本地震と同30年の豪雨を乗り越え、竣工から約170年を経た今も、 ^{しらいと} 白糸台地の農耕活動を支え続ける。

【重要文化財】 ^{しんしゅうほんびょうひがしほんがんじ} 真宗本廟東本願寺 2件17棟 ^{けいちょう} 京都府京都市

真宗本廟東本願寺は、^{おおたには} 真宗大谷派の本山寺院で、^{けいちょう} 慶長7年（1602）現在地に分立した。4度に及ぶ罹災の後、明治から昭和期にかけて整備された殿舎群は、上質な意匠と格式を備える近代随一の大規模なもの。内事は ^{ないじ ひがしほんがんじしゅうしゆ} 東本願寺宗主及び子弟の住居で、大正12年の建設。稀代の ^{たけだごいち} デザイナー武田五一による先進的な意匠を取り入れた和洋併設の大規模二世帯住宅である。

<担当> 文化庁文化財第二課

課長 田中 禎彦

課長補佐 田中 佳幹

調査部門 岡本 公秀、番 光（内線9773）

審議会係 森 幸一郎、和田 智寛（内線9756）

電話：075-451-4111（代表）

【国宝 新指定の部】

① 近世水利土木施設の到達点を示す近世石橋の傑作（近世以前／その他）

通潤橋 1基

所在地：熊本県上益城郡山都町

所有者：山都町、通潤地区土地改良区

阿蘇南外輪山南側の丘陵に広がる通潤用水の一部をなし、嘉永7年（1854）に建設された石造水路橋。四方を谷で隔てられ、水源に乏しい白糸台地を潤すため、近世最大級の石造アーチを溪谷に架け渡し、^{さや}鞆石垣、^{うらづき}裏築等の技術を駆使して耐震性を高めた精緻な高石垣と、耐久性に優れた石管からなるサイホンを一体化した、技術的完成度の極めて高い、近世石橋の傑作。この比類ない技術は、地域社会が社会資本整備を牽引する役割を担った江戸後期及び末期において、企画立案から完成に至るまで卓越した事業遂行能力を発揮した熊本藩領の手永役人^{てなが}と当時最高水準の技術力を誇った石工集団が、実験や藩との協議を繰り返す中で創出したものである。通潤橋はこれら営みの優れた所産であり、近世水利土木施設の到達形態の一つを示すと共に、江戸末期に九州で興隆した石橋文化を象徴する土木構造物として、深い文化史的意義が認められる。



提供：山都町教育委員会

【重要文化財 新指定の部】

① 建材研究者・矢中龍次郎の実験的かつ意匠性に富む自邸（近代／住居）

きゅうや なか けじゅうたく
旧 矢中家住宅 2棟

ほんかん べっかん
本館、別館、土地

所在地：茨城県つくば市

所有者：個人

つくばさん
筑波山の南麓、つくば市北条に位置する建材研究者で実業家・矢中龍次郎の住宅。昭和17年建築の本館は木造ながら陸屋根とし、矢中発明の防水剤を使用するほか、大壁にも矢中が採掘精錬した顔料を用いる。また、昭和24年完成の別館ともども、各所に開けた換気口や、工夫を凝らした建具で通風に細心の注意を払うなど、日本の気候風土に配慮した実験的な住宅として、学術的な意義を持つ。一方、なんぶしゅんほう南部春邦の手による杉戸絵や襖絵、水墨画などを随所に配し、銘木をはじめ吟味した材料を使用するなど、意匠的にも優れている。高低差のある地形を生かした敷地及び敷地を画する石塀や擁壁などとあわせて保存する。

○指定基準＝意匠的に優秀なもの、学術的価値の高いもの



別館一階食堂

提供：つくば市教育委員会

② 濃密な装飾が施された近世後期の北関東を代表する神社建築（近世以前／神社）

てんまんぐう
天満宮 2棟

ほんでん へいでん はいでん まっしや かす がしやほんでん
本殿・幣殿・拝殿、末社春日社本殿

きりゅうし
所在地：群馬県桐生市

所有者：宗教法人天満宮

重要伝統的建造物群保存地区・桐生市桐生新町の北端に位置する神社。桐生新町の町立に際して遷座された。寛政元年（1789）建立の本殿は、にじゅうしこう からこ二十四孝、唐子遊びをはじめとした彫刻や彩色等の装飾で埋め尽くされる。近世の北関東において発達した神社建築装飾

が、江戸後期に爛熟する様相をよく示す。計画絵図、発注書、棟札があわせて伝わる点も重要。末社春日社本殿は、のきげた たるき そ ま軒桁、垂木の反り増しなど、遅くとも17世紀初期の建立と見られる特徴をよく示し、群馬県下における希少な遺構である。

○指定基準＝歴史的価値の高いもの、流派的または地方的特色において顕著なもの



撮影：（公財）文化財建造物保存技術協会

③ 7つの取水施設を統合した明治後期の代表的農業用水施設（近代／産業・交通・土木）

てどりがわしちかようすいしゅすいしせつ
手取川七ヶ用水取水施設 2基、1所
だいすいもん とりいれぐちすいどう とがしやうすいとりにれぐちすいもん
大水門、取入口隧道、富樫用水取入口水門

所在地：石川県白山市

所有者：手取川七ヶ用水土地改良区、
国（農林水産省）



提供：白山市

手取川を水源とし、金沢平野一帯を形成する手取川扇状地の要の位置に立地する明治34年建設の取水施設。近世来の小規模な取水施設を統合（合口化）し、施設の大規模化と水利利用の合理化を図った合口取水施設として我が国現存最古のものである。取水施設は、石造及び煉瓦造の大水門と煉瓦造の富樫用水取入口水門、全長210m超を測る煉瓦造の一～三号隧道（トンネル）及び予備隧道からなる。北陸有数の穀倉地帯である金沢平野を潤す手取川七ヶ用水の基幹施設であり、明治後期を代表する農業用水施設の一つとして評価される。

○指定基準＝歴史的価値の高いもの

④ 木造モダニズム建築の嚆矢となった建築家レーモンドの別荘兼事務所（近代／住居）

かるいざわなつ いえ きゆう
軽井沢の家（旧アントニン・レーモンド
かるいざわべつてい
軽井沢別邸） 1棟

所在地：長野県北佐久郡軽井沢町

所有者：有限会社塩沢遊園



提供：軽井沢町教育委員会

軽井沢に位置する昭和8年建築の建築家アントニン・レーモンドの別荘兼事務所。昭和61年に現在地に移築された。バタフライ屋根とスロープ、吹抜を用いて、立体的で動きのある空間を創出し、丸太による木造軸組構造、芯外しの引戸などを駆使して軽快さと開放性を実現した。モダニズム建築を日本の伝統技法を用いて実現した先駆的な事例であり、後の我が国の木造のモダニズム建築に大きく影響を与えたものとして歴史的価値が高い。

○指定基準＝歴史的価値の高いもの

⑤ 先進的な意匠を取り入れた武田五一設計の壮大な二世帯住宅（近代／住居）

しんしゅうほんびょうひがしほんがんにないじ
真宗本廟東本願寺内事 3棟
ようかん にほんかん つる ま
洋館、日本館、鶴の間

所在地：京都府京都市

所有者：宗教法人真宗大谷派

京都市下京区に位置する、武田五一によって設計された、大正12年建築の東本願寺宗主とその子弟のための大規模な二世帯住宅。

洋館は、我が国におけるセセッション受容の代表作の一つであり、細部意匠を含めて造形の

特徴をよく捉え、フランク・ロイド・ライトの造形を取入れた初期事例としても特筆される。日本館は、建築家による和風住宅の好例であり、伝統的な形態に近代的な細部意匠を採用し、全体として格式張らず、軽快な空間をつくる。稀代のデザイナー武田五一による和洋を併設した住宅として、意匠的に優秀である。また、鉄筋コンクリート造の住宅として最初期の事例であり、歴史的価値が高い。

○指定基準＝意匠的に優秀なもの、歴史的価値の高いもの



提供：真宗大谷派

⑥ 古墳前方に並ぶ独特の構成を持った江戸初期の社殿群（近世以前／神社）

さくらいじんじや
櫻井神社 3棟
ほんでん はいでん ろうもん
本殿、拝殿、楼門

所在地：福岡県糸島市

所有者：宗教法人櫻井神社

櫻井神社は玄界灘に突き出た糸島半島に位置する。古墳の上に覆屋を架け岩戸宮と称し、前方に本殿、拝殿、楼門を並べる独特の構成を持つ。創建から程なく整備された社頭景観をほぼそのままに残す希少な神社遺構として価値が高い。

寛永9年（1632）建立の本殿は三間社としては規模が大きく、組物や四手先の腰組などは江戸初期の整った意匠を持ち、組物や臺股彫刻等を極彩色で豊かに飾る。拝殿も平面や開放的な建具の扱いに地域色をみせ、質実なつくりの楼門とともに、福岡藩直営にかかる質の高い社殿群として評価できる。

○指定基準＝流派的または地方的特色において顕著なもの



提供：糸島市地域振興部文化課

⑦ 中世に遡る県下最古級の希少な神社本殿（近世以前／神社）

^{たかすじんじゃほんでん}
高祖神社本殿 1棟

所在地：福岡県糸島市

所有者：宗教法人高祖神社

高祖神社は、福岡県西端の糸島市と福岡市の境にある高祖山^{たかすやま}の西山腹に位置する。創建が平安時代前期に遡るとされる古社で、中世は高祖城を本拠地とする原田氏、近世以降は福岡藩黒田氏の崇敬を受けた。本殿は天文10年（1541）の建立で、元龜3年（1572）、寛文2年（1662）に改修があったが、身舎軸部、装飾ともおおむね元龜までの姿をとどめている。現存する県下最古級の神社本殿であり、中世に遡る希少な神社本殿遺構として歴史的価値が高い。



提供：糸島市地域振興部文化課

○指定基準＝歴史的価値の高いもの

⑧ 日向灘を望み眺望に優れた鰯漁網元の上質な住宅（近代／住居）

^{ひだかけじゅうたく}
日高家住宅 2棟

^{おもや} ^{くんせいしつ}
主屋、燻製室、土地

所在地：宮崎県延岡市

所有者：個人

日向灘に突出する遠見半島の北に位置する。明治24年に「日高式大敷網」を発明して財を成した、鰯漁網元・日高亀市の邸宅。敷地は、明治20年頃、水揚場のために海岸沿いを埋め立てて造成された。主屋は明治中期から大正初期にかけて整えられ、良材を用いて格式高い座敷飾りを備える大広間、立地を生かした眺望の良い座敷を設ける。銘木は黒柿を床柱や付書院等へ多用し、仏間の出床状の構えも珍しい。数寄屋風の意匠を取り入れるが、節度を保った造作で、質の高い近代和風住宅として評価される。鰯加工にかかる煉瓦造の燻製室も併せて伝わり、敷地とあわせ一体的に保存を図る。



提供：延岡市教育委員会

○指定基準＝意匠的に優秀なもの

【重要文化財 追加指定の部】

- ① 豪農が構えた上質な文人墨客の活動拠点 (近世以前／民家)
旧坂野家住宅 (茨城県常総市大生郷町)

2 棟

書院、文庫蔵

所在地：茨城県常総市

所有者：常総市

旧坂野家住宅は、茨城県の南西部にある常総市の大生郷町に位置する。坂野家は中世以来この地に住んだ土豪で、近世には代々大生郷村の名主を務めた。広大な敷地に建物を点在させる。主屋は18世紀はじめの建築で、太い柱や梁で構成された構造は豪壮で、表門及び塀とともに、豪農の屋敷構えを伝えているとして重要文化財に指定されている。書院は、大正9年の建築。常総地域における文人墨客の活動拠点となった施設で、材料、意匠ともに秀でた上質な近代和風の座敷棟として評価される。既指定の主屋等に追加し、文庫蔵とあわせて保存する。



提供：常総市教育委員会

○指定基準＝意匠的に優秀なもの、流派的または地方的特色において顕著なもの

- ② 国内最古級の擬洋風住宅と一体となった敷地 (近代／住居)

富岡家住宅

土地

所在地：山梨県甲府市

所有者：個人

富岡家住宅は、甲府市の重要文化財・甲斐善光寺の真北、愛宕山の東麓を流れる高倉川の扇状地の要の位置に所在する。山梨県の藤村県令のもと、参事として県の勸業政策を推進した富岡敬明の本邸。主屋は、国内最古級の擬洋風住宅であり、藤村治世における洋風建築推進の住宅版と考えられ、歴史的に重要であり、書院とともに重要文化財に指定された。各建物は、傾斜のある敷地を石積で区画して造成した平地に巧みに配置され、書院の前方には池のある庭をつくる。敷地は重要文化財建造物と一体となって価値を形成しており、敷地内の石積等とあわせ保存を図る。



撮影：麓和善

○指定基準＝歴史的価値の高いもの

③ 上質な意匠と格式を備えた近代随一の大規模寺院殿舎群（近代／宗教）

しんしゅうほんびょうひがしほんがんに

真宗本廟東本願寺 14棟

ほうぞう おおげんかんおよ おおしんでん しろしよいん
宝蔵、大玄関及び大寝殿、白書院、

くろしよいん みやごてん おうかてい のうぶたい
黒書院、宮御殿、桜下亭、能舞台、

ぎじどう おもてこしよいん きくもん げんかんもん
議事堂、表小書院、菊門、玄関門、

じむしょもん ないじもん じゅうさんそうどう
寺務所門、内事門、十三窓土蔵

所在地：京都府京都市

所有者：宗教法人真宗大谷派 おおたには

真宗本廟東本願寺は、真宗大谷派の本山寺院で、慶長7年（1602）、徳川家康が寄進した現在地に東本願寺が分立して境内が整備

された後、4度に及ぶ罹災の度に門徒の篤い信仰のもと伽藍を再興した。元治の大火（1864）後も創立以来の境内構成を踏襲しつつ、遠忌などの節目に伽藍を充実し、御影堂、阿弥陀堂などの堂舎群と大玄関及び大寝殿などの殿舎群は、境内を画する築地塀や諸門とともに、近世来の規模と形式を遵守し、伝統を色濃く残した境内構成と景観を呈する。さらに、亀岡末吉設計の白書院、黒書院、菊門、宗議会議場である議事堂、数寄屋風の洗練された意匠を持つ桜下亭などは近代の和風意匠の充実や近代的な機能の付与を示し、近世以来の境内構成を受け継ぐ本山寺院が、近代化を受容し、重層化した過程を知る上で歴史的に重要である。上質な意匠と格式を備えた近代随一の大規模寺院殿舎群として高い価値を有している。

○指定基準＝意匠的に優秀なもの、歴史的価値の高いもの



提供：真宗大谷派

〈個別解説凡例〉

番号 特 徴 (年代区分／種類別)

名 称 員 数

複数棟指定の場合の建造物の名称、土地* 等

所在地

所有者

(※建造物と一体をなして価値を形成している土地を併せて指定するもの。)

〈国宝・重要文化財の指定件数〉

令和5年6月答申

(国 宝)

	種 類 別	現在指定数		新規指定		追加指定		合計	
		件数	棟数	件数	棟数	件数	棟数	件数	棟数
近世以前の分類	神社	42	77					42	77
	寺院	158	167					158	167
	城郭	9	17					9	17
	住宅	14	20					14	20
	民家	0	0					0	0
	その他	4	8	1	1			5	9
	小計	227	289	1	1	0	0	228	290
近代の分類	宗教	0	0					0	0
	住居	1	1					1	1
	学校	1	1					1	1
	文化施設	0	0					0	0
	官公庁舎	0	0					0	0
	商業・業務	0	0					0	0
	産業・交通・土木	1	3					1	3
	その他	0	0					0	0
	小計	3	5	0	0	0	0	3	5
合 計		230	294	1	1	0	0	231	295

(重要文化財)

	種 類 別	現在指定数		新規指定		追加指定		合計	
		件数	棟数	件数	棟数	件数	棟数	件数	棟数
近世以前の分類	神社	578	1,273	3	6			581	1,279
	寺院	866	1,275					866	1,275
	城郭	53	235					53	235
	住宅	97	158					97	158
	民家	360	911			(1)	2	360	913
	その他	196	279					196	279
	小計	2,150	4,131	3	6	0	2	2,153	4,139
近代の分類	宗教	33	116			(1)	14	33	130
	住居	121	505	4	8	(1)	0	125	513
	学校	44	85					44	85
	文化施設	41	80					41	80
	官公庁舎	34	63					34	63
	商業・業務	28	46					28	46
	産業・交通・土木	101	330	1	3			102	333
	その他	5	17					5	17
	小計	407	1,242	5	11	0	14	412	1,267
合 計		2,557	5,373	8	17	0	16	2,565	5,406

※重要文化財の数は、国宝の数を含む。